

## 著書紹介

# Academic Library 著者自らが新刊を紹介します。

### はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史

鳥越信、長谷川潮編著

メディアプロデュース学部・教授・酒井晶代(共著)

▶ A5判/366ページ/ミネルヴァ書房/3500円+税/2012年4月25日発行 ▶ 明治から現代までの戦争児童文学の史的展開をたどるとともに、ジャンル別・題材別の各論を収めた通史。東京大空襲を描いた作品『猫は生きている』の分析を中心に、第21章「戦争児童文学に描かれた空襲」を分担執筆した。



### 現代コミュニティ心理学 —理論と展開—

心理学部・教授・植村勝彦(著)

▶ A5判/364ページ/東京大学出版会/3400円+税/2012年6月15日発行 ▶ 子ども、高齢者、障がい者、市民を柱として設定し、コミュニティ心理学の理念に基づく理論とその実践を、これらの対象に配属させる形で紹介したテキスト。その目指すところは、人と環境の適合を図り、社会の変革を指向することを通して、人々のウェルビーイングを探求することにある。

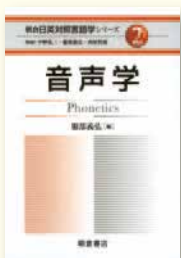


### 音声学(朝倉日英対照言語学シリーズ第2巻)

服部義弘(編)

交流文化学部・教授・中郷 慶(共著)

▶ A5判/155ページ/朝倉書店/2800円+税/2012年6月25日発行 ▶ 英語学・英語教育学・言語学に関心を持つ学生や、英語・日本語教育関係者を対象とした『朝倉日英対照言語学シリーズ』の第2巻。全7章のうち第6章「イントネーション」を執筆。英語のイントネーションの形式や意味、構造などを、日本語との比較・対照を図りながら提示した。



### 意味論(朝倉日英対照言語学シリーズ第6巻)

中野弘三(編)

外国語教育部門・准教授・二村慎一(共著)

▶ A5判/160ページ/朝倉書店/2700円+税/2012年8月30日発行 ▶ 言語表現の意味とは何か、単語の意味や文の意味の意味論的分析とはどのようなものであるか、さらには単語の意味はどのような理由でどのように変化するかを概観し、意味論という研究分野の概要を紹介したテキスト。第2章「語の意味」を執筆した。



### あらゆる小説は模倣である。

メディアプロデュース学部・教授・清水良典(著)

▶ 新書判/234ページ/幻冬舎/800円+税/2012年7月30日発行 ▶ 小説作品が先行作品の模倣と影響から生まれることを様々な例とともに紹介しつつ、近代ロマンティズムの産物である独創性と個性という考え方が、今日ではむしろ抑圧となっている現状を論じ、そこからの脱却を呼びかけている。実践的な創作トレーニングを兼ねた内容。

